

## 令和6年度 都筑区地域福祉保健推進委員会 議事録

日時：令和6年12月11日(水)10時～12時10分

場所：都筑区役所 6階大会議室

出席者：別添名簿の通り

【開会】（進行：福祉保健課長）

- ・区長あいさつ
- ・新任委員4名の紹介（事務局からお名前の紹介）
- ・事務局紹介

【議題】（進行：名和田委員）

### 1 つづき あい基金について

- (1) 令和6年度つづき あい基金助成金 助成報告（前期分）について  
資料1に基づき、事務局より説明。  
＜質疑応答＞特になし
- (2) つづき あい基金審査委員の選出について  
資料2に基づき、事務局より説明。  
【結果】委員1名を決定した。

### 2 第4期都筑区地域福祉計画進捗状況および第5期都筑区地域保健計画策定について

資料3に基づき、事務局より説明。  
＜質疑応答＞特になし

### 3 意見交換

（進行）

第5期都筑区地域福祉保健計画骨子案について、『いれたほうがよい要素・足りない要素』『強化したい内容・大事だと思うこと』についてご意見を伺いたい。

（進行）

地域福祉保健計画は地域づくりの基本になっている。第4期計画まで20年近く推進してきた。その間、継続発展してきていると思うが、不足している部分もある。今までやってきたことを今後の目標として柱が3つあるので、それぞれにご意見いただきたい。

（委員）

- ・お互いを認め合うという「多様性」、「尊重」など基本的なところが大事だと思っている。
- ・自治会に入らない方、PTA活動をやめたい方など、地域活動に携わっていない方々に対して、地域福祉保健計画を広く伝えるPRが大切だと思う。
- ・“子どものために”は変わらないはずである。子育て中の方や若者などに伝えたり、活動に参加してもらえるような、時代に合わせた新しい方法を考えられると良い。

(進行)

- ・子どもや若い世代にこの計画を知っているかと聞くと「知らない」と答える。子どもにとって必要な活動を地域がやっているということを示していき、自治会の加入率をあげていくことを追求していかなければいけないと思っている。

(委員)

- ・PTAは学校と両輪になって子どもたちの生活を支えるものだが、PTAは学校のお手伝いではないし、保護者には無理なく参加してもらいたい。子どもは学校だけで成長するものではない。PTAという枠で考えるより、保護者や地域の方々と一緒に子どもの成長を支えられるかを考えている。
- ・保護者と学校だけで子どもが育つわけではなく、地域とのつながりを学校が作っていくのが大事。
- ・併設のコミュニティハウスを利用している団体と子どもたちを交流させてもらっている。例えば浴衣を着せてもらって太鼓や踊りを教えてもらったり、クラフト作成をしたり、点字を教えてもらったり、地域の方と一緒に活動する時間を設けている。
- ・(柱2) ②の居場所づくりについて、支援が必要なお子さんや家庭がある。日常的に連携は必要だと思っている。
- ・(柱2) ⑦住民の気づきについて、12月13日に実施した地区懇談会には子どもや保護者も参加し、学校運営協議会に声をかけて三者で話し合った。去年は交通安全がテーマだったが、今年は子どもたちにテーマを決めてもらい、「私たちはどんなことが地域の中でできるか」がテーマだった。
- ・(柱3) わかちあいについて、地域ケアプラザの職員を講師に、認知症サポーター養成講座を全校生徒に行った。都筑区は核家族が多く、保護者の年齢も若い。全校生徒の様子をみると認知症の方が地域にいることを知らない生徒もいる様子だった。
- ・学校が地域に出ていくことはもちろん、教育課程の中で子どもを媒介して、地域と保護者のつながりをつくっていききたい。

(委員)

- ・子どもは学校だけでは育たない。子どもたちには地域が必要。就労している保護者も多い中で、ボランティア活動なら参加しますと言ってくれる方もいる。参加してくれる方を突破口にしていけたらよいと思っている。
- ・総合学習の時間で防災を取り上げたところ、地域防災拠点の訓練に参加する子どもが多く、保護者も参加してくれた。子どもが地域と保護者をつないでいくことは、学校としてもっとできることだと思った。
- ・地域が学校行事へ参加することが難しくなっている。地域にはたくさん良い人たちがいるため、つながる場のチャンスを増やしていきたい。
- ・計画のPRは大事だと思っている。いろいろな形で、地域、保護者、子どもたちに発信していきたい。

(進行)

- ・地域の方は学校に、学校は地域に出ていき貢献することをコーディネートする、双方向の取組になっている。心強い発言をいただいた。

- ・みんなで子どもを育てるという意識醸成も大切。
- ・計画の中でも学校の関係を取り上げてほしい。

(委員)

- ・学校の先生が地域行事に参加して、地域の状況をご自身の目で見てもらいたい。
- ・地区懇談会では小・中学生に参加してもらった。子ども目線で地域の困ったことを知ることができてよかった。結果は出にくいかもしれないが、子ども目線の意見を聴くことが必要だと思った。
- ・地区の公園清掃は、お互いにコミュニケーションをとる場となっているが、そういった機会が少なくなっている。どうやったら今の時代に取り入れられるか。小さい頃からそういう環境で育たないと身につかないのではないかと。地域の中でも学校と連携して前向きに（こういった考え方を）取り入れてもらえればよいのではないかと。

(委員)

- ・地区懇談会で中学生が参加してくれた。子どもの目線はすごくいいなと感じたので継続したい。
- ・家族や親は社会の中での一番身近な存在。いちばん小さな社会が家庭。家族があって地域があって社会がある。
- ・はじめはみんな知らない人だが、あいさつなどを通じて知り合いになれる。知り合えるとコミュニケーションがとりあえる。あいさつを通じてつながっていくことが大切だと思う。

(委員)

- ・（自分たちが関わっている）高校生や外国人を思い浮かべていた。彼らにこの計画が伝わるだろうか。伝えられるだろうか。
- ・都筑区は平均年齢が若い区。青少年の視点をどう盛り込むのか、彼らがどういった地域で暮らしたいのかを吸い上げる必要がある。子どもの様子を考えると、本当に多様化している。彼らの声をどうやって知るか。そういった視点を入れた計画になると良い。
- ・子どもが「はあと de ボランティア」のような行事に参加したら、自動的に地域に繋がるかということではない。そこに子どもたちと地域をつなげる人の存在が必要。
- ・都筑区内に在住の外国人は出身国が 87 か国にわたっており、特定の国に偏っていない。同じ国同士の共助が乏しい。地域に彼らをつなげる人が必要。
- ・（この計画を知らない人に）計画を知ってもらうことが重要。

(進行)

外国籍の方への支援は、必ずテーマとして出てきており、より深めていくべき。計画を深めていく上で、今後、具体的な知恵をいただきたい。

(委員)

- ・一番大事なのは「であい」だと思う。
- ・第 1 期計画から第 4 期計画まで、推進してきたメンバーが変わっていない。
- ・この計画を 1 番知ってもらいたい層である、子育て層や働き世代には出会いの場がない。

仕事をしている人が多いが、もう少し出会う場所があっても良い。

- ・昔から住んでいる人と転入者との交流がない。向こう3軒両隣の関係性づくりが必要。
- ・「であい」を重視して、地域で進めていきたい。知っている人たちだけではなく、地域住民が出会える場を作っていきたい。

#### (進行)

知っている人同士だけではないという点が大切。単一町内会レベルでも様々な取組が行われている。顔の見えていない人がサロンなどに参加してきたとき、歓迎する姿勢が必要。知らない人との出会いや付き合いを明文化している。

#### (委員)

- ・子育て支援拠点開設時は、保護者が就労せず、2～3歳まで自宅で子育てしている人が多かった。現在は早く復職する人が多いため、子育て広場は0・1歳が中心で、せいぜい2歳くらいまで。地域で保護者が一緒に過ごせる時間が短くなっている。
- ・妊娠期からの取組に力を入れている。子どもがいない時は家と職場の往復だけだったが、妊娠をきっかけに、地域に何かあるのかを知ってもらえるようにしている。
- ・子育てを失敗したくない、周りに迷惑をかけたくない人が多い。人に迷惑をかけないようにすることで、助けを求めたり、人とのかかわりを避けたりすることにつながる。保護者に向けて、周りに頼って良いということを伝えていく必要がある。
- ・子育てを通じて助けてもらった、優しくしてもらったという感情が、地域と繋がる接点になる。時間がかかるが、自分が助けられたことを誰かに返していく良い循環を作っていきたい。
- ・子育て支援拠点は、今は未就学の居場所であるが、学齢期になっても悩みがあったら戻って来られる場所にしたいと思っている。
- ・地域の方がいつでも気軽に来られる場、出会いの場として、イベントではなく日常の暮らし中で出会える場、日々の暮らしの中に多世代・多様な人が参加できる場が必要だと思う。

#### (委員)

- ・地区内の学校でもPTAがなくなったが、保護者有志でできることはできると良いと話している。子どもたちを育てたいという情熱を持っている人がやると、情熱の伝わり方が違うと思っている。
- ・通学路の見守りもやっていきたい。地区ではみんなで見守りを進めている。
- ・何事も楽しい方が良い。人が集まる工夫をしていけたら良い。

#### (委員)

- ・小中学校PTA会長や自治会長を経験し、現在老人会会長7年。
- ・老人会の会員が4,000人から3,000人に減少している。高齢者が増えているのに老人会員自体は減っている。どのようにしたら良いか検討している。
- ・住民の入れ替わりで若い人との繋がりが持てない。

#### (委員)

- ・PTAだけではなく、こども会がなくなってきている。保護者が働いていて、活動の一翼

を担えないのが現状。これまで自治会と連携していたが、やり方を変えればできるのかもしれない。親だけではなく、地域で面倒をみるといことも伝えていけるといいかもしれない。

- ・委員就任当初、学校家庭地域連携事業では、活動をすることで様々なつながりができ、であいやつながりという意味では大事だった。昨今は社会情勢も変化し、いろいろなやり方があるため、見直しても良いのではないか。
- ・民生委員として、一人暮らし高齢者へ訪問している。参加型のサロンやイベントの企画をしているが、アクセスが厳しく参加しない人もいる。広い地域ではなく、近所で気軽に行ける距離にあると良いがボランティアが集まらない。

#### (委員)

- ・今年から災害食や備蓄の重要性を啓発している。
- ・新しいことをやっていけるのが都筑区の強みだと思っている。新しいやり方・着眼点でやって行けたら良い。

#### (委員)

- ・地域との繋がりを重視している。つながりもわかちあいも、普段の付き合いから育んでいくきっかけが必要。
- ・地域防災拠点訓練への参加を障害者支援の事業所に呼び掛け、まずはお互いを知ること、相互理解を深められるよう取り組んでいる。
- ・障害者施設・高齢者施設などは福祉避難所として指定されているため、ぜひ合同訓練を実施してほしい。福祉避難所は社会福祉法人が運営している施設が多いため、役割を果たす意味でも良いと思う。
- ・農福連携を行っており、実績を上げている。地域特性を生かした取組が、つながり分かち合いに繋がっていく。

#### (委員)

- ・障害のある児の、親の繋がりが難しくなっている。
- ・高齢の親が自宅で障害のある子どもを介護している状況がある。
- ・(柱3) ③成年後見をぜひ入れていただきたい。

#### (進行)

- ・都筑区は、港北ニュータウン計画の中で農地を残してきた経過があり、それが活かされている。障害がある方から「地域とつながりたくない」という言葉を聞いたことがあったので、今いただいた委員の言葉は心強い。

#### (委員)

- ・認知症予防カフェを10年運営している。担い手と会員が減少している。
- ・独自で老人会として活動している。会則を変更し地区の縛りなくしたら他地区から加入してくれた人がいる。月1回、老人会主催でカフェを行い、会員数が増加、子ども連れも参加してくれるようになった。なにか工夫しないと担い手も会員も減っていく。いろいろな方と繋がれば繋がっていききたい。

(委員)

- ・居場所のきっかけになる場所としてのクリニックがあっても良いのではないかと考えている。医師しか知らない、その人の苦しみもある。
- ・認知症の連絡会、グリーンケア、ヤングケアラーなど。
- ・障害児から障害者になる時の医療の関わりが手薄。コーディネーターが必要。実践する立場としてやっていかなければいけない。

(委員)

- ・三師会で医療連携が活発の区。歯科に限られるが、就学時検診・学校検診・定期健診とあるが指導が繋がらず切れる。子どもから高齢者まで継続してケアしていけると良い。

【講評】

都筑区に根差した話が出た。本日委員の皆さんからでた意見を事務局で活かして、ブラッシュアップして行ってほしい

【閉会】(進行：福祉保健課長)

(進行)

- ・言い足りないことやご意見などがあれば、アンケートにご記入・提出いただきたい。
- ・次回は、令和7年6月頃の開催を予定している。改めて連絡させていただく。